新潟県立歴史博物館評価委員会

令和元年度における
館の自己点検に対する
二次点検評価報告書

令和２年８月

活　動　評　価　表　（総括）

博物館の基本理念

○　県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
○　人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して
『より県民に愛され、利用され、″にぎわいのある博物館″』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」
博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］利用者数　（単位：人）

	平成30年度	令和元(平成31)年度		令和３年度
	実績	目標	実績	目標
①　利用者総数	(単年)164,566 (前計画期間平均)102,822	増加させる	97,274	増加させる
②　観覧者数	(単年) 64,596 (前計画期間平均) 52,830		50,521	

○［評価指標］満足度

	平成30年度	令和元(平成31)年度		令和３年度
	実績	目標	実績	目標
①　来館者満足度	98%	維持・向上させる	98%	維持・向上させる
②　企画展	95%		95%	
③　講座等 講座・講演会 体験コーナー	93% 100%		95% 100%	
④　来館者対応	98%		99%	

※令和元年度は、新型コロナ感染防止のためR2.3.2～3.31まで臨時休館

(1)**収集保管**　収蔵資料データ整理の進展、収蔵庫の良好な保存環境の継続
(2)**展示**　［常設展］展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施
［企画展］有料展覧会４回（「浮世絵でみる!お化け図鑑」、「新たな国民のたから」、「国民の文化財」、「越後佐渡の温泉文化」）
［その他］移動展覧会、ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ研修成果を高校２校で展示
(3)**調査研究**　外部研究費６件（ほかに研究分担者としての取得３件）
(4)**教育普及**　館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム２件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活性化（体験プログラム開発に参加）
(5)**連携**　地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実など
(6)**情報発信**　新聞雑誌等への露出増加、ホームページ及びSNS（フェイスブック、ツイッター）による情報発信
(7)**管理運営**　博物館運営方針（H29～）に基づいたPDCAの継続

分 析	(1)利用者総数、観覧者数 ★観覧者数　常設展 H30：19,384 人→H31：13,358 人 企画展 H30：45,212 人→H31：37,163 人 春季企画展のみ観覧者数 1 万人超を達成。 多館連携企画がなかったこと、新型コロナウイルス感染防止のための臨時休館などにより、利用者総数、観覧者数とも減少した。 (2)満足度の評価指標は、各項目とも昨年並みを維持している。 (3)取組実績のうち、外部研究費（科研費）取得、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。
課 題	(1) 企画展のテーマ設定及び展示方法などのさらなる工夫 (2) 常設展の特集展示の実施や展示資料替えなどのさらなる工夫 (3) 具体的な集客に向けた広報等への新たな取組 (4) 調査研究活動の充実と県民還元の推進 (5) 支援団体・協力者との一層の連携強化
取組に対する自己評価	評価できる　[やや評価できる]　やや評価できない　評価できない　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	[評価できる]　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・ 収集・保管以下、各項目において概ね良好な活動状況であり、総合的にみて肯定的な評価を妨げるものはない。確かに、評価指標の一つである利用者総数と観覧者数が目標に達しなかったものの、要因の一つである年度末の新型コロナウイルス蔓延は不可抗力といえる。 ・ 他方、昨年度と比べて集客力のある企画展が開催されなかったことが、数値が伸びなかった一因であるのも事実であろう。確かに入場者数は配慮すべきであるが、数値に反映しにくい展覧会の質の担保も忘れてはならない。今年度の企画展は、国の文化財から新潟の温泉文化など幅広く、テーマ、質ともに県立博物館に相応しい内容であった。 ・ 企画展に合わせた一般書の出版、感染症拡大に合わせて急遽なされた関連資料の展示準備（常設展）、休館中に行われた SNS による積極的な情報発信など、必ずしも予算措置を必要としないものも含めて、多岐にわたって活動に創意工夫が多々見受けられた一年であったといえるだろう。今後もこうした試みを期待したい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 ・良好な資料保存環境を維持する。	
主な実現方策	・資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 ・ＩＰＭによる環境管理を継続する。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］収蔵資料目録の刊行準備

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
1 目録	**1**	**1**	1 目録

○　［評価指標］データベース公開数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
2617	**300 件以上**	**337 件**	300 件以上

収集

(1)**資料寄贈**　　20 件

(2)**収蔵資料破損**　なし

(3)**収蔵品整理作業**　継続

保管

(1)**文化財害虫モニタリング測定**　月１回

(2)**殺・防虫消毒**　展示室殺虫消毒　１回　館内殺虫消毒　１回
館外防虫施工　２回　燻蒸室内燻蒸　３回

(3)**収蔵庫温湿度管理**　通年

(4)**空気環境管理**　酸・アルカリ濃度測定　４回（収蔵庫、企画展示室）
カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定　各１回

(5)**収蔵庫定期清掃及び資料点検**　１回

(6)**収蔵庫定期点検**　月１回

(7)**ＩＰＭ研修**　３回

(8)**保管環境研修会参加**　文化財ＩＰＭコーディネータ講習会

分 析

(1)保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして概ね良好に維持され、全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上が図られている。

(2)データ入力委託予算がなくなり、入力のペースは落ちている。

課 題

(1)資料整理・データ入力の予算・人員確保

取組に対する自己評価

評価できる　　やや評価できる　　やや評価できない　　評価できない　　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・　評価指標の 2 項目とも目標を達成しており、資料整理が継続して推進されていることは評価できる。ただし、データベース公開数が大幅に減少している点は今後の懸念材料といえる。データ入力委託予算がなくなった分をどのように補填していくか、計画的な活動方針を示す必要がある。 ・　保管環境を保つため、随時点検を行っている。また、文化財 IPM コーディネータ講習会などに参加し、職員の知識向上に努めていることがわかる。「保存」は取組実績では目立たない分野だが、大いに評価できる。 ・　資料収集は博物館の基本理念、収集方針に則った上で、必要な場合には購入などを博物館内で検討できる環境が望ましい。 ・　今後、資料の増加による収納の問題や、デジタルデータやこれまでにない素材の資料保存の問題が予想される。収集保存の専門職（アーキビスト）の育成も必要であろう。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。	
主な実現方策	・年４回程度の企画展の実施を目標とする。 ・入場者の満足度を高める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］企画展示室実施事業数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
６回	**７**	**９**	７回以上

○　［評価指標］満足度

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
93%	**90%**	**95%**	90%

(1)**企画展**

	観覧者数(実績)	(開催日数)
春「浮世絵でみる！お化け図鑑」	15,850 人	(39 日)
夏「新たな国民のたから」	8,319 人	(27 日)
秋「国民の文化財」	8,570 人	(45 日)
冬「越後佐渡の温泉文化」	4,424 人	(38 日)

※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別途報告。
※冬季企画展については、臨時休館のため会期が短縮となった。

(2)**関連講演・講座**　講演会を毎回開催

(3)**関連イベント等**

春「国際博物館の日記念　無料観覧日」の設定
「お化け缶バッジを作ろう」（体験コーナー）
夏「織物模様プラ板ストラップを作ろう」（体験コーナー）、映画上映会
秋「縄文模型を作ろう」（体験コーナー）

(4)　**企画展以外の企画展示室実施事業**

６～７月・友の会主催展覧会「第 16 回マイ・コレクション・ワールド」
11 月　・MOA 美術館　長岡児童作品展
・鉄道模型走行会
・縄文子どもフォーラム 2019～縄文のメッセージ・私のメッセージ～（火焔街道博学連携プロジェクト）
12 月　・火焔街道博学連携プロジェクト主催展覧会「子ども縄文研究展 2019～縄文のメッセージ・私のメッセージ～」

分 析

(1)講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得た。
(2)**春季展**は、親しみやすいテーマで来場者を得た。
夏季展は、国宝、重要文化財、新潟県ゆかりの作家による質の高い展示品で構成された。
秋季展は、国民文化祭の一環であり、教科書でなじみのある考古資料で構成された。

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・ 新規テーマ展示、ワンポイント解説の取り組み実績は、目標値をクリアしている。固定化した展示の中で、楽しみ方を深める工夫は評価できる。 ・ 2019 年度、スマートフォン用の解説アプリの導入に取り組み、2020 年度から稼働を開始したことは今の時代に対応した取り組みとして評価できる。積極的に PR を行うことで、多くの来場者が気軽に利用し解説を楽しむことに期待したい。 ・ リニューアルについては短期的な視野ではなく、今後も検討課題として取り組み続けてほしい。 ・ アンケート結果や来場者の意見に基づいた展示室の環境整備への取り組みに期待したい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。	
主な実現方策	・年４回程度の企画展の実施を目標とする。 ・入場者の満足度を高める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］企画展示室実施事業数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
６回	**７**	**９**	７回以上

○　［評価指標］満足度

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
93%	**90%**	**95%**	90%

(1)**企画展**

	観覧者数(実績)	(開催日数)
春「浮世絵でみる！お化け図鑑」	15,850 人	(39 日)
夏「新たな国民のたから」	8,319 人	(39 日)
秋「国民の文化財」	8,570 人	(44 日)
冬「越後佐渡の温泉文化」	4,424 人	(38 日)

※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別途報告。
※冬季企画展については、臨時休館のため会期が短縮となった。

(2)**関連講演・講座**　講演会を毎回開催

(3)**関連イベント等**

春「国際博物館の日記念　無料観覧日」の設定
「お化け缶バッジを作ろう」（体験コーナー）
夏「織物模様プラ板ストラップを作ろう」（体験コーナー）、映画上映会
秋「縄文模型を作ろう」（体験コーナー）

(4)　**企画展以外の企画展示室実施事業**

６～７月・友の会主催展覧会「第 16 回マイ・コレクション・ワールド」
11 月　・MOA 美術館　長岡児童作品展
・鉄道模型走行会
・縄文子どもフォーラム 2019～縄文のメッセージ・私のメッセージ～（火焔街道博学連携プロジェクト）
12 月　・火焔街道博学連携プロジェクト主催展覧会「子ども縄文研究展 2019～縄文のメッセージ・私のメッセージ～」

分 析

(1)講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得た。
(2)**春季展**は、親しみやすいテーマで来場者を得た。
夏季展は、国宝、重要文化財、新潟県ゆかりの作家による質の高い展示品で構成された。
秋季展は、国民文化祭の一環であり、教科書でなじみのある考古資料で構成された。

	冬季展は、温泉というユニークな視点をテーマにした展示で好評であった。 (3)展覧会を通じた県内外の諸団体との連携を図った。
課 題	(1)保管環境を守りつつ展示を見せる工夫が求められている。 (2)開催予算の減少を見据えた実施計画の策定が求められる。
取組に対する自己評価	評価できる　[やや評価できる]　やや評価できない　評価できない　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	[評価できる]　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・　年 4 回の有料企画展を実施したことは、意欲的な展示活動であったと評価できる。 ・　さらに、展示説明文の文字を大きくしたり、漢字にルビを振ったりするなど、高齢者や子供たちへの配慮がうかがえる。 ・　また、企画展以外の展示室実施事業でも、人気の高いマイ・コレクション・ワールドや鉄道模型走行会などをはじめとした活発な活動が行われ、評価指標を上回っている。 ・　一方で、新潟県で国民文化祭が開催され、多くの無料行事が行われたこと、新型コロナ感染症の流行で 3 月を閉館したことなどにより、企画展の観覧者数が伸び悩んだ。 ・　今後、新しい状況下での観覧者・参加者の確保が課題となる。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。	
主な実現方策	・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 ・講座参加者の満足度を高める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］外部研究費取得件数

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
7（+４）	６	６（+３）	６件

（）内は研究分担者

○　［評価指標］学会発表等件数

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
16 回	11	12	11 回

○　［評価指標］論文等執筆件数

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
62 件	55 件	49 件	55 件以上

(1)　**外部研究費**（科学研究費ほか）

・渡部浩二（研究代表者）「近世産業絵巻の基礎的研究」科学研究費基盤Ｃ

・前嶋　敏（研究代表者）「中世信越地域寺社所在史料に関する調査・研究」東京大学史料編纂所一般共同研究

(2)　**学会発表等**

・三国信一「霊魂が出入りする窓―熊野灘沿岸地域における水窓の民俗―」日本民俗学会第 71 回年会

・橋詰　潤「ロシア連邦アムール川下流域における土器出現期」日本考古学協会第 85 回総会

(3)　**論文等執筆**

・山本哲也「“地域に根ざす博物館”とは何か―第三世代の博物館論を軸に考える」『博物館研究』54-8

・大楽和正「納豆と豆腐―大豆の加工食―」『日本の食文化３麦・雑穀と芋』（吉川弘文館）

査読論文１件

分　析

(1)外部研究費は研究分担者を含め多数取得できた。

(2)学会発表等もほぼ目標どおりであるが、論文等執筆件数がやや少ない。

課　題

(1) 研究成果をより積極的に論文化して発表していく必要がある。

取組に対する 自己評価	評価できる　[やや評価できる]　やや評価できない　評価できない　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる　[やや評価できる]　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	・　科学研究費基盤 C をはじめとする外部資金に研究代表者として採択されているケースが複数あり、研究機関として高いレベルを維持していることがうかがえる。 ・　論文発表や学会での口頭発表も目標をほぼ達成しているが、当該年度は査読付き論文の発表数が少なかったことが残念である。 ・　研究活動全般を見渡すと、考古、歴史、民俗、そして博物館学と、幅広い分野にわたって研究業績を上げていることが確認でき、いずれも当館の活動方針に沿ったものと見受けられる。引き続き、バランスのとれた調査研究活動を期待する。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	教育・普及 ／ 学校教育	経営企画課
取組方針	・学校教育に一層活用される博物館を目指す。 ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 ・館内及び館外活動の充実を図る。	
主な実現方策	・教育機関への施設利用の周知。 ・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］県内小学校利用率

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
35%	**35%**	**34%**	35%

○　［評価指標］体験活動の新プログラム導入件数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
2	**1**	**2**	１件以上

○　［評価指標］体験コーナー参加者満足度

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
100%	**90%以上**	**100%**	90%

(1) **県内小学校来館校数**　128 校（延べ数）
(2) **体験活動の新規プログラム**　2 件の新規オリジナルプログラム「織物模様ストラップ」「お化け缶バッジ」（体験コーナー）
(3) **出前授業の実施**　27 回 2,722 人（まが玉づくり、火おこし体験など）
(4) **教育機関への施設利用の周知活動**
・県教育委員会の教育施策説明会…上中下越佐渡の小中・特別支援学校長
・新潟市の園長・学校長研修会……保育・幼稚園から高校の園長・校長
・県及び新潟市のＰＴＡ連合会研究大会…ＰＴＡ役員等
・各地区教員研修会…校長・教頭・研究主任・社会科主任等
・学校訪問の重点化…常設展・企画展に関する広報活動
(5) **学校との連携**
・高等学校新聞部　企画展開場式における取材、学校新聞発行
・火焔街道博学連携プロジェクト…継続的な学習活動支援

分 析

(1) 小学校来館数は、減少傾向にあるが、学年別に利用する学校が多く、利用率は安定している。その他の学校・大学は近年増加傾向にある。
(2) 体験コーナー参加者の満足度は、高い水準を維持している。
(3) 教職員から、展示や解説、体験活動について高い評価を得ている。

課 題

(1) 幅広い教員層に対する広報活動、研修の実施
(2) 体験活動の新プログラム開発・内容の充実と新規性のＰＲ
(3) 学校からの幅広い要望に応える案内説明やキャリア教育にかかわるプロ

	グラムの充実
取組に対する 自己評価	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	・　県内小学校の来館校数は前年度よりやや減少したが、出前授業利用校数が27 回と過去最多であったことから、県内小学校の団体利用率は前年度並みとなった。今後学校数が減少することが予想される中で、来館、出前授業ともに機会を捉えてＰＲに努めてほしい。 ・　中学校、高等学校、大学及び特別支援学校の来館校数が 80 校と前年度よりは減少したが、それでも過去２番目の数値であった。これもＰＲ活動の成果であると言える。これらの校種の学校についても小学校同様、出前授業も含めてこれまで以上の利用増を目指して、更なる取組を期待したい。 ・　体験活動の新規プログラムを２件導入したことは、高く評価できる。特に、「お化け缶バッジ」は、企画展と関連づけた楽しいプログラムであった。今後も企画展示とコラボレーションするなどして、体験活動の新規プログラムを継続的に開発していくことを望む。

県内小学校団体利用率の推移

年度	Ａ:来館校数	Ｂ:出前授業利用校数	Ａ＋Ｂ	県内小学校数	比率
21	157	12	169	552	30.6
22	161	8	169	534	31.6
23	171	9	180	531	33.9
24	151	6	157	525	29.9
25	164	15	179	510	35.1
26	142	16	158	485	32.6
27	138	13	151	484	31.2
28	149	17	166	481	34.5
29	147	20	167	471	35.5
30	140	21	161	463	34.8
元(31)	128	27	155	451	34.4

中学校～大学及び特別支援学校の来館者の推移

年度	来館校数	来館者数
21	47	2,268
22	49	1,833
23	47	2,612
24	52	2,116
25	66	2,370
26	52	1,563
27	70	3,116
28	60	1,727
29	66	1,641
30	93	2,109
元(31)	80	1,852

活　動　評　価　表

機能・取組分野	教育・普及 ／ 社会教育	経営企画課
取組方針	・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 ・館内・館外での活動の充実を図る。	
主な実現方策	・社会教育機関との連携に努める。 ・館内講座・出前講座を継続する。 ・ボランティアの受入の推進。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］出前講座の参加者満足度

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
96%	**90%**	**95%**	90%

○　［評価指標］館員の講座・講演会の参加者満足度

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
93%	**90%**	**94%**	90%

○　［評価指標］ボランティアの活動延人数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
435 人	**500 人**	**458 人**	500 人

※新型コロナウイルス感染防止対策として、令和２年３月はボランティア活動縮小

(1)**出前講座**　　県内市町村からの要請で 22 回実施、参加者 559 名
(2)**館内講座**　　講座・講演会を実施、参加者 2,319 名
(3)**ボランティア登録者**　18 名（このほかに中学生ボランティア 2 名）
(4)**ボランティア活動**
・資料整理、講座の受付、広報活動、体験コーナー及び学校団体の体験活動の補助並びに体験プログラムの開発・運営への参画
・常設展示室「縄文人の世界」案内解説（中学生ボランティア）
(5)**ボランティア増加に向けた取組**
・中学生ボランティアの継続実施
・来館者に対する広報活動の重点化

分 析

(1)出前講座は、市町村の要請に基づいて計画、実施し、H27 以降増加傾向
(2)館内講座は、昨年度同様、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立った。その他、伝統芸能上演や企画展と連動した寄席などが特に好評を博した。
(3)ボランティア登録者は、ここ数年の間、20 名前後で推移。活動延人数は、３月の活動を縮小したため、目標値には達しなかったが H30 の実績は上回った。
(4) ７～８月に、中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施した（６年度目）。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を継続的に進めている。
(5)大学生ボランティアは、今年度実績はなかった。

課 題	(1)出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開 (2)館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大 (3)ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施
取組に対する 自己評価	評価できる　[やや評価できる]　やや評価できない　評価できない　判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	[評価できる]　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	・　出前講座の要請回数が前年度の 21 回から 22 回に増加したこと、出前講座の参加者満足度が前年度の 96%に続いて 95%の高い水準を維持したことは、大いに評価できる。こうした数値は、積極的に市町村に広報活動を展開したことと内容の充実に努めた結果であると言える。こうした努力は今後も継続を期待したい。 ・　館内講座の参加者は前年度の 2,527 人から 2,319 人と若干減少した(－８%)。しかし、企画展示の観覧者数が前年度の 51,612 人から 37,163 人と減少(－28%)した一方で、館内講座参加者の減少率はかなり小さい。館内講座に対するニーズの高さを伺うことができ、社会教育施設としての役割を十分果たせていると言える。 ・　ボランティア登録者は前年度の 21 人から 20 人に微減しているが、活動延人数は前年度の 435 人から 458 人に増加している。しかも令和２年３月は新型コロナウイルス感染防止のためボランティア活動が縮小しており、通常の活動ができたら活動延人数はさらに増加したと思われる。今後は、さまざまな年代・職種等から幅広くボランティアが参加しやすい環境を整備することが一層望まれる。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	連　携－学術面の連携	学芸課
取組方針	・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 ・幅広い団体とのネットワークを強化する。	
主な実現方策	・新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 ・県内外の他館及び団体と共催しての巡回展の実施に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］地域史研究ネットワーク事業数

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
２件	**２件**	**１件**	２件以上

○　［評価指標］展示協力等他機関との連携事業

平成 30 年度	**令和元（平成 31）年度**		令和３年度
実績	**目標**	**実績**	目標
継続	**継続**	**継続**	継続

(1) **地域史研究ネットワーク**
・新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月１回）
・研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年１回）

(2) **移動展**　高校生アカデミックインターンシップ成果展（１回２会場）

(3) **展示協力**　５件
・山本哲也「企画展「古物を守り伝えた人々―好古家たち Antiquarians―」（國學院大學博物館）
・前嶋　敏「津南町今井城保存整備委員会」（津南町教育委員会）

(4) **研究協力**　13 件
・浅井勝利「漆紙文書解読」（新発田市教育委員会）

(5) **高等教育機関講師派遣**　22 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・新潟薬科大学）

分 析

(1) 地域史ネットワークは、参加団体向けの研修など充実を図っている。
(2) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。

課 題

(1) 地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化するとともに、内容の充実を図っていく。

取組に対する自己評価	評価できる	［やや評価できる］	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	評価できる　［やや評価できる］　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・　県内外の研究機関と連携した実績は大いに評価できる。今後も高校生アカデミックインターンシップ成果展や高等教育機関講師派遣など、各教育機関、研究機関との関係を維持し、発展させていくことを期待している。 ・　本年度、達成できなかった「地域史研究ネットワーク事業数」は、依頼を受けたものだけでなく、より自発的、主体的な事業の実践が望まれる。 ・　課題として毎年挙げている「地域史研究ネットワークの充実」は、新潟県の中核博物館として、より積極的な活動を行っていただきたい。県内行政機関や博物館などと連携を取りつつ、地域史研究をけん引するような組織作り、役割を期待する。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	連携 ／地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。	
主な実現方策	・各種団体との事業共催等による連携を模索する。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］地域団体の活動への参画件数

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
25	15	25	15

歴史博物館と共催文書を交わしたものを含め、実施した事業数

(1) **新潟県立歴史博物館友の会**

・友の会主催展覧会
「第 16 回マイ・コレクション・ワールド」の開催（６～７月）

・研修旅行
県内：阿賀町方面（７月）、県外：山形県方面（12 月）

・映画上映会
「星に語りて～Starry Sky」（9 月）

(2) **県内各種イベントでの体験ワークショップ**

・長岡まつり、関原楽市・縄文まつり、米百俵まつりでの体験コーナー実施

(3) **文化遺産総合活用推進事業**

瞽女唄ネットワーク（11 月）、佐渡郷土文化の会との主催事業（伝統芸能上演会「佐渡人形芝居の集い」（７月）、「春駒の集い」（11 月）など計４回）

(4) **その他の関係団体**

・火焔街道博学連携プロジェクト（２回）、表千家われもこう（企画展での呈茶席開催４回）、MOA 美術館、日本民具学会・新潟県民具学会、長岡観光コンベンション協会（商談会４件）、長岡鉄道模型クラブ、関原町サイノカミ有志の会

(5) **リピーター割引の実施**

・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を２割引とする連携を進めている。

(6) **その他**

・冬季企画展では、県旅館ホテル組合から協力を得て会員宿泊施設にポスター等を掲示。

・関原町サイノカミ有志の会と協働して、平成 12 年度(2000 年)から毎年サイノカミを開催している。

分 析

(1) マイ・コレクション・ワールドは、ここ数年、来館者が増加傾向にある。
(2) 長岡観光コンベンション協会からの協力により参加している大阪の商談会では、長岡花火とセットでの来館について好感触を得た。

課 題

(1) 新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大
(2) 地域づくりに向けた連携強化･･･地域の文化団体と連携を図りながら、歴史を通

	じた地域づくりへの取組
取組に対する 自己評価	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
Ⅱ　評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	・　連携団体数の実績は、昨年度に続き目標を 10 件も上回る 25 件となり、評価できる。 ・　冬季企画展「越後佐渡の温泉文化」では県旅館ホテル組合の協力を得て宿泊施設に企画展ポスターを掲示してもらい、展示会場には宿泊施設のパンフレットを置くなどする相互連携も試みられた。 ・　今後も各種関係団体との間で相互にメリットが生まれるような新たな連携強化を進め、地域の魅力アップと来館者の増加に努めていただきたい。

活　動　評　価　表

<table>
<tr><td>機能・取組分野</td><td>情報発信／情報発信</td><td>経営企画課</td></tr>
<tr><td>取組方針</td><td colspan="2">・当館の活動について、県民認知度を高める。
・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。</td></tr>
<tr><td>主な実現方策</td><td colspan="2">・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。
・IT やマスコミを活用した情報発信の充実を図る。
・県外客誘致のための広報に努める。
・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅰ　博物館による自己点検と評価</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="2">○　［評価指標］新聞、雑誌、テレビ等に報道掲載された件数
<table>
<tr><td>平成 30 年度</td><td colspan="2">令和元（平成 31）年度</td><td>令和３年度</td></tr>
<tr><td>実績</td><td>目標</td><td>実績</td><td>目標</td></tr>
<tr><td>422/178/229</td><td>200/100/150</td><td>364/201/259</td><td>200/100/150</td></tr>
</table>
○　［評価指標］館ホームページへのアクセス件数
<table>
<tr><td>平成 30 年度</td><td colspan="2">令和元（平成 31）年度</td><td>令和３年度</td></tr>
<tr><td>実績</td><td>目標</td><td>実績</td><td>目標</td></tr>
<tr><td>136,834 件</td><td>100,000 件</td><td>130,771 件</td><td>100,000 件</td></tr>
</table>
(1)報道掲載
・新聞は、前年度を下回ったものの、目標値を大きく上回った。テレビ等（ラジオ・web 含む）は、前年を超えた。中でも雑誌では、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、全国的な歴史専門誌にも掲載された。
(2)インターネット
・ＨＰアクセス数は、既に目標値を大きく超えている。
・公式 SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム）を活用し、頻繁に情報発信した。令和２年１月に SNS 用のキャラクターを作成した。
・情報セキュリティ訓練の実施など情報危機管理体制の強化に努めた。</td></tr>
<tr><td>分 析</td><td colspan="2">(1)イベントの増が、新聞等に掲載される件数の増加に結びついている。
(2) SNS のフォロワー数は少しずつではあるが着実に増加している。企画展のアンケートでも SNS で開催情報を得たという回答が目立ってきているなど、一定の効果はあると認識している。</td></tr>
<tr><td>課 題</td><td colspan="2">(1)企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。
(2)ツイッターなどＳＮＳを活用し、積極的な情報発信を行う。
(3)今後ともセキュリティ対策の充実を図る必要がある。</td></tr>
<tr><td>取組に対する自己評価</td><td colspan="2">評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅱ　評価委員会による検証・評価</td></tr>
<tr><td>取組に対する全体的評価</td><td colspan="2">評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留</td></tr>
<tr><td>評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言</td><td colspan="2">・企画展をはじめとした各種イベント、活動について、積極的な情報発信を行った。新聞、雑誌、テレビ等伝統的媒体での報道掲載件数が目標を大きく上回ったほか、ホームページへのアクセス件数も目標を超えた。特に、ファン層により効果的にアピールできる SNS（フェイスブック、ツイッター、</td></tr>
</table>

	インスタグラム）を活用、ツイッターフォロワー件数が 1 万件に及ぶなど着実に効果を上げ、評価できる。今後も、県内外に周知し、誘客につなげるため、イベントごとにより効果的なツールを選択し、積極的な情報発信を行ってほしい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。	
主な実現方策	・自己評価・外部評価の実施。 ・評価結果の的確な反映によるＰＤＣＡサイクルの確立。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　［評価指標］全体収支比率

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
7.8%	５%	4.6%	（５%）

○　［評価指標］（評価指標の達成率）

平成 30 年度	令和元（平成 31）年度		令和３年度
実績	目標	実績	目標
80%	100%	74%	（100%）

(1)博物館運営方針（H29～H33）及び年度初めに設定した「当面の課題」６項目に沿って活動全般を進めた。
(2)現運営方針に基づくＰＤＣＡサイクルを継続した。
・活動評価表の作成及び経営会議での議論等による自己評価
・外部評価委員による検証と評価
・これらを踏まえた改善と進捗管理
(3)月各１回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。
(4)施設管理については、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。
(5)来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持した。また、火災に備えた防災訓練を年３回行い、深化を図った。

分 析

(1)目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。
(2)全体収支比率については、光熱水費や委託料（特に人件費）の上昇及び新型コロナウイルスによる影響により、目標を下回った。

課 題

(1)　ＰＤＣＡサイクルを定着させ有効に機能させる。
(2)　観覧料収入の増加及び経費の節減により、収支状況の改善を図る。
(3)　セキュリティ設備を含め、計画的な設備・機器等の更新・補修の実施

付帯資料

令和元年度第1回新潟県立歴史博物館評価委員会
次第

令和元年 11 月29 日（金）
14:00～
新潟県立歴史博物館研修室

1　開　会

2　議　事

(1)　令和元年度評価について
(2)　令和元年度事業概要について

3　閉会

○配付資料

【資料1】歴史博物館の概要
【資料2】歴史博物館の活動の根拠
【資料3】新潟県立歴史博物館の評価委員会について
【資料4】令和元年度委員会スケジュール
【資料5】令和元年度博物館の取り組み（平成 30 年度博物館評価報告書を受けて）
【資料6】当面の課題（令和元年度）
【資料7】入館者状況
【資料8】学芸関係・交流普及事業等
【資料9】参考資料（博物館運営方針）

第一回評価委員会議事録

令和元年 11 月 29 日　14 時～16 時

事務局　これより令和元年度第１回歴史博物館評価委員会を開催する。

館長　挨拶大意
県の財政状況など逆風にどのように抗していくか考えながら運営をしていきたい。
4 月に警備員が関わった盗難事件が発生し、世間を騒がせたことについて改めてお詫びしたい。
今年度、あらたなメンバーをお迎えした。委員の皆様には、引き続き、専門の立場からまた県民の立場から忌憚のない御意見をたまわりたい。

委員紹介
田中委員長、佐藤副委員長を選出

委員自己紹介

事務局より評価の方法、スケジュールについて説明。（資料２，３、４）
副館長より、来年度予算の見込み、企画展観覧者の常設展示料金免除の廃止、昨年度の評価を受けての博物館の対応状況を説明。（資料５）

委員長
確認事項はあるか。

委員 A
印字の濃淡があるが。意味はあるか。

事務局
編集の都合によるもので、意味はない。

委員 A
料金が別になるとのことだが、条例改正が必要かと思うが、発案はどこか。

副館長
県内の全ての施設で手数料の点検が行われた結果である。実質的収入増にはむすびつかないだろうと意見は出した。

委員 A
影響を受けるのは歴史博物館と近代美術館か。

事務局
そうである。

委員長
自然科学館は？

副館長
指定管理者なので、別である。

委員長
近代美術館と歴史博物館では常設展示の位置づけが違うと思う。

館長
コストに見合う料金体系を見直したということだ。過渡的なのか、継続されるかはまだわからない。リピーターが多いので、常設展観覧者数が減るのではないかという見通しは持っている。収入増と博物館の役割がどうなのかは別問題であろう。常設展入館者の記録をして分析を行い、次のステップにつなげなければならない。

委員 A
シーリング 10%、維持管理５％というのは例年に比べてどうなのか。

経営企画課長
昨年度もシーリングはかかっていた。その前年はなかった。過去にもシーリングはあり、開館当初に比べると予算が半分ほどになっているのではないか。

副館長
維持管理費の中で今年は光熱水費も含めて５％となっているので、かなり影響が大きいと見ている。

委員長
ボランティアに監視業務をお願いするようになったということだが、今までは監視業務はどうしていたのか。またこれによってボランティアの年齢層などに変化はあったのか。

経営企画課長
企画展監視にはその都度、職員を採用している。昼休みの交代時間帯にボランティアに入っていただくということを春から始めた。募集の後にこれを始めたので、特にボランティアに変化はない。

副委員長
昨年度は微増したが、現在のボランティアの人数はどのくらいか。

経営企画課長
3 名減って 18 名である。

副委員長
上限はあるのか。

経営企画課長
上限はない。今年度はリタイヤされる方がいた。企画展業務をいれたこともあって活動数としては増えている。

委員 B
高校生アカデミックインターンシップについて説明を願いたい。

経営企画課長
就職前に研究機関の職場体験をおこなうのが狙いで教育委員会高等学校教育課が 30 年度から実施しており、先方から打診があった。夏に２日間、展示方法などについて学芸員が 4 名を指導した。博物館実習のコンパクトなものである。

副館長

こちらで行った展示を生徒の出身校でも行った。

委員長
どんな方向性を考えている生徒だったのか。

経営企画課長
博物館業務に興味がある生徒だったようだ。

委員長
学芸員の仕事内容を知っている人は少ないので、高校生が身近にその仕事を見られるのは良い。

経営企画課長
第 3 志望までをふくめてだが、30 名の応募があった。

委員 B
4 名というのは上限か。

経営企画課長
こちらのキャパシティーからそうなる。

館長
博物館実習に来ている学生も向学心が盛んで熱心に取り組んでいた。指導面での博物館の役割は大きい。

委員 C
リニューアルの内部検討委員会というのはどういうものか。

事務局
学芸課の中でそれぞれ専門の異なるものが担当して検討を行っている。

委員長
リニューアルは以前から話題になっており、小さな事でもいいので状況を知らせてもらいたい。正式な報告ではなく、検討会のような場で口頭でかまわない。

館長
これだけの規模なので、リニューアルにはかなりの金額がかかる。来年度の冬の企画展は収蔵品を使った展覧会でしのぐことになる。これを機会に収蔵品をフルに使うことを考えていくことも必要だ。

委員長
検討会のような場で、話をしてもらえれば、様々な異なる分野のメンバーがいるので、アイデアをだせるところもあるのではないかと思う。

副館長より当面の課題についての説明（資料６）

副委員長
学校現場で活用できる教材開発の部分が、キャリア教育にあわせた職場見学などへの対応となっているが、まったくかみ合っていないのではないか。教材開発は取り組まずにキャリア教育に重点を置いていくということなのか。

経営企画課長

すでに常設展見学についての教材は作成してあるので、キャリア教育にシフトしていくことを考えている。

副委員長
教材は新たなものを作る予定はないということか

経営企画課長
カリキュラムが変わるということを聞いているので、それに合わせて変更を加えては行く。

館長
今の副委員長の指摘を踏まえて、表現が適切であるか再度検討すべきであろう。

委員長
教科の資料としての位置づけはありつつ、キャリア教育も並行していうことか。

経営企画課長
そういうことになる。

委員長
次に今年度事業について説明をお願いする。
なお、検討会の時にスタッフにヒアリングをしていたこともあるそうなので、次回の検討会でヒアリングをしたら効果的ではないかと思われることがないか、委員の方々にはそうしたつもりで聞いていてほしい。

経営企画課長
入館者状況については観覧者数 40594 人、収入 13832 千円、利用者数 75051 人で 29 年度と同等を見込んでいる。（資料７）

館長
昨年は冬の展覧会は文化庁の補助事業であったため、無料であったこともあって冬としては来館者が多かった。夏は戊辰 150 年、秋は長岡開府 400 年と博物館にとってよい風が吹いた。

委員長
通常の冬展に比べてどうであったのか。

経営企画課長
例年 5000 人程度のところ、6000 人ほどであった。

館長
今年の秋展は 8500 人のうち、無料となった即位礼の日にあまりＰＲをしなかったが、1000 人を超える入館者があった。

委員長
無料で企画展をみた観覧者が、料金を払って常設展をみてくれるだろうか。

館長
そうはいかないだろう。昨年の戊辰展や今年の秋展で県外からの企画展見学者も少なくなった。そうした方々に常設展も見ていただくにはどうしたらよいか。来年東京からどのように人を呼び込めるか考えていかなくてはならない。

委員Ｃ

常設展の熱心なリピータはいるのか。

経営企画課長
友の会会員が多い。

学芸課長
毎週末、研究員が行っている常設展ワンポイント解説にほぼ毎回来られる方がいる。

学芸課長　今年度前半の学芸関連事業（資料８）について説明

委員 A
企画展の計画時期はいつごろか。

学芸課長
おおむね 3 年前になる。

委員 A
構想していた展覧会を予算の都合でさしかえることもあるのか。

学芸課長
そういう事例もあった。

館長
借用交渉などかなり時間がかかる。国宝が展示されると入館者に大きく影響するようだ。

委員 A
今年の夏にも国宝が展示されていた。もっとうまく告知できないものか。
近代美術館のＰＲにくらべると随分おとなしい。

館長
ピクサー展は体験型で子どもの人気を呼んだ。しばらく休館していたこともあって、人気を呼んだようだ。

委員 A
博物館では体験コーナーの人気があるが、有料のものもあるのか。定員が少ないように思うが。

事務局
体験については、次の資料で説明する。

委員長
今年は前半が巡回、後半が自主企画ということだったか。

学芸課長
夏の国民のたから展には出品物の選定や図録原稿作成に当館が関わっている。年 1 回の開催で巡回ではない。

委員長
冬の温泉展は楽しみにしている。民間とのタイアップには制限があると思うが、どこかの温泉地の割引券などがあると面白いのだが。

経営企画課長　交流普及事業（資料８）について説明

委員 A
夏休みの体験コーナーに申し込んだが、定員一杯で断られた。体験型のものをさらに充実してほしい。

経営企画課長
即日でうまるものも多い。今年度から受付開始日を設けるようにした。安全管理の上でも、受入人数には上限がある。

委員 A
有料にすると条例改正が必要なのか。

副館長
料金徴収する場合は条例改正が必要である。

委員 A
材料費はかまわないでは。

経営企画課長
ショップで材料を買ってもらうことはできる。直接受け取りはできない。

委員長
冬の展示の時に新潟大学の学生が子ども向けのイベントを行わなかったか。

経営企画課長
春に怪談の落語があった。

委員長
子ども向けのワークショップを増やす場合、関連する大学のゼミなど外部の力を使うこともできそうだ。

学芸課長
冬の展示では、学生が展示を行った。

委員 C
落語は講座の中に入っているのか。

経営企画課長
館内講座のひとつである。

委員 A
年間スケジュールは全戸に回すような仕組みか。どこにおいてあるのか。

経営企画課長
図書館、公民館などに配布している。

館長
印刷費も削らなければならないので、来年度は部数がかなり経る。効果的な配布場所を考える必要がある。

委員 C

長岡だけか。

経営企画課長
全県に配布している。床屋にも配っている。

委員 A
たしかに床屋で見た。

委員 D
企画展は告知が大きな比重を占める。予算がカットされる状況ではおしなべてではなく、プライオリティを付けないと、全体が落ち込んでしまうのではないかと思う。

委員 C
ＳＮＳはお金がかからないが。

館長
自分もＳＮＳに使われている。アンケートを見ると、新潟日報を見た人の割合が多い。

委員 D
関心層と読者層がかさなっているようだ。

委員長
先月、こちらで婚活イベントがあったようだが。

中澤専門研究員
30 名のところ、100 名以上の応募があり、先方からこれほど女性が集まることがないので、1 回の予定のところ、２回開催させてほしいと言われた。民間団体の主催である。勾玉作りや縄文展示の案内など博物館としてできることを提供し、全体の運営は先方が行った。

委員長
入館料は。

経営企画課長
払ってもらった。前回は学校を使い、次回は古民家を使うということだ。

委員 C
時間帯は？

中澤専門研究員
夜のアルコールを伴う会であるとひやかしのような参加者もあるが、こうしたところで昼間に行うと誠実な人が集まり、成立しやすいということだ。

委員長
休館日を使ったのか。

中澤専門研究員
通常の開館日で、ほかの来館者の迷惑にならないよう企画展の開催されていない日曜日に設定した。

委員 A
歴博を使うという発想はどこからなのか。

中澤専門研究員
こちらの前には市内の学校を使ったところ、それなりの落ち着いた参加者が集まったので、今回は博物館を会場にしたと聞いた。休日の学校の家庭科室でお菓子作りなどをしたようだ。

委員長
来館経験者はどのくらいいたのか。

中澤専門研究員
半分くらいの方が来たことがあると答えた。リピーターの方もいた。

経営企画課長
比較的成立率がよかったようだ。

委員 B
WIFI のガイドはいつ頃完成する見込みか。

経営企画課長
予算上は今年度末だが、早めに整備できると思う。

館長
2 月頃には試行ができるのではないか。

委員 B
次の会議の時に試すことができそうか。

経営企画課長
そうだ。

館長
6 カ国語対応になり、2020 対策としてもよい。

委員 B
常設展示は外国人にも、うけが良さそうだ。

経営企画課長
雪の展示が人気がある。

委員 A
観光客を引っ張り込むような対策はとっているのか。

館長
これからだ。特に長岡にくるかどうか。

委員 A
外国人の来館者統計はあるか。

経営企画課長
目視で行っている。

委員 A

どの県から来ているかは？

副館長
アンケートには記入欄があるが、全員が答えてくれるわけではない。

委員 D
花火の時に長岡に滞留してもらうため、こちらが寄るべき場所の一つになってほしい。

館長
アクセスの問題があり、博物館にフリーの客が来られない。

委員 A
花火は夜なので、昼をどうすごしていいか分からない人や暑いのがいやな人がいる。信濃川左岸で見る人を対象に、旅行会社とタイアップして、昼間涼しい博物館で過ごして、夜移動するというようなアイディアもあるかもしれない。帰りに博物館に寄ってもらうルート設定もあるかもしれない。
来年は花火館オープンがあり、花火館に来た人をどのように誘導するか戦略的に考えた方がよい。観光タクシーもあるがあまり使われておらず、市の助成も出ているので、もっと使ってもらいたい。

経営企画課長
商談会に当館も参加させていただいてありがたい。

委員 A
互いに連携していかないと底上げができない。

館長
昨年の戊辰展では３館が連携し、開府４００年では実行委員会で長岡市一体で行い、強くなることができた。

委員長
以上で議事を終了する。
次回のヒアリングについて要望があれば事務局にあげていただきたい。

事務局
日程については改めて委員の皆様に伺うことにする。
展覧会の開催中に行いたい。

令和元年度第2回新潟県立歴史博物館評価委員会　次第

令和2年6月 12日（金）14:00～
新潟県立歴史博物館研修室

1　開　会

2　議　事

(1)　令和元年度評価について
(2)　令和2年度事業について

3　閉会

〇配付資料

【資料1】令和元年度自己評価　（事前送付）
【資料2】企画展概要　（事前送付）
【資料3】アンケート集計　（事前送付）

第二回評価委員会議事録

令和2年 6 月 12 日　14 時～16 時

事務局　これより令和元年度第2回歴史博物館評価委員会を開催する。

文化振興課長　挨拶大意
昨年度は4回の企画展が開催された。冬については新型コロナウィルスの影響で、休館せざるをえなかった。今年度は開館20周年を迎え、その事業も予定している。本日は忌憚のないご意見を伺いたい。

館長　挨拶大意
30 年度は記念事業が続き、幸運であった。昨年度も力を入れて行ったが、秋の企画展は国民文化祭のイベントが重なり、入館者は伸び悩んだという印象を持っている。今回もありのままの数字をもとに厳正な評価をお願いしたい。今年春の企画展は会期をかなり絞らざるを得なかった。今後も感染症の状況を見ながら、対応をしていく。

委員長
本日の会議の目的は、博物館の自己評価の説明を聞き、委員会としての評価を決めること、そして各項目のコメント執筆担当者を決めることである。
まず、資料の説明をお願いしたい。

学芸課長
収集保管について、目録刊行は目標どおりであった。また、データベースについては、30 年度は入力委託ができたため大幅に目標値を上回ったが、昨年度はかろうじて目標を達成することができた。収蔵品について事故もなかったことから、自己評価を「評価できる」とした。

委員長
何か質問はあるか。
目録が刊行されたということだが、何が収録されているのか。

学芸課長
継続して行っている越後文書宝翰集の刊行である。

委員 A
寄贈品の内容は何か。

学芸課長
民具がほとんどである。大型のものは収蔵スペースから受入が難しくなっている。

委員 B
データベースの内容はどのようなものか。

学芸課長
収蔵品のうち5万点ほどが現在入力されている。名称、法量、簡単な解説が公開されている。昨年度は近世の資料の整理がすすみ、入力された。

委員 C
アクセス件数はわかるか。

学芸課長
件数を計測する機能がない。

委員 C
リアクションはあるか。

学芸課長
出版物の資料掲載依頼から、データベースが利用されていることがわかる。
館内の端末も来館者が利用している様子が見られる。

学芸課長
続いて常設展示について、2つの目標値をクリアしており、展示室の問題も起きていない。ただし、リニューアル案検討については停滞していると自覚している。

委員 D
スマホアプリを使用してみた。イヤホンの要望はあるか。

経営企画課長
今のところない。ただし、今年度は休館期間もあったので、稼働して日数が経っていない。

委員 C
企画展示にも関係するところだが、コロナによる閉館期間を教示願いたい。

経営企画課長
昨年度末は3月2日から 31 日、今年度は4月 18 日から5月 18 日である。

委員 C
ワンポイント解説は目標値を上回っているが、3月に開館していればもっとあがっていたということか。

学芸課長
そうである。

委員 D
スマホアプリの稼働はいつからか。

経営企画課長
3月 28 日ころであった。

委員長
昨年度事業としてよいのか。

事務局
整備を昨年度内に行い、今年度より稼働したということである。

委員長
ワンポイント解説の人数が、開館日数が少ないのにもかかわらず目標値より多いのはよいことなのだが、目標が 500 というのはどのような根拠か。

学芸課長
指標作成時の実績を参考にしたものである。

委員 A

常設と企画の料金が別になるのは今年度からということか。すると、今年度から数値が変わってくる可能性があるかもしれない。
3 月開館していたら、どの程度になったと見込まれるか。

学芸課長
一回につき5，6人多くて 10 人なので、700 程度であったかと思われる

学芸課長
企画展については企画展示室の実施事業数、満足度とも目標値を上回っている。しかし、全体として観覧者数が見込みより少なかったことから自己評価は「やや評価できる」とした。

委員 D
満足度はどこから得ているのか。

学芸課長
アンケートである。4 段階から選択してもらう。

委員 C
観覧者数から自己評価を行ったということだが、目標値はどこにあるのか。

学芸課長
予算要求時の数値であり、評価表には示していない。

委員 C
評価表にないものを判断基準にされても、こちらでは評価ができない。

館長
総括の部分で、全体として来館者を増加させるという計画になっているので、そこからの判断とお考えいただきたい。

委員 C
観覧者数を指標にしてしまうと、大変だ。そのために別の指標が設けられていると理解している。

委員長
自主企画はどれか、確認したい。秋と冬ということか。

学芸課長
夏の企画展も資料選定に当館が関わっているので、全くの巡回ではない。

委員長
夏と秋のタイトルがよく似ている。

学芸課長
サブタイトルで違いを出した。

委員長
特にタイトルによる混乱はなかったということか。

学芸課長
なかったと考える。

委員長
3 月から休館となったが、計画している企画展についてその影響はあるか。

学芸課長
来年度は祭りの企画展を予定しており、今年度行事の調査を行う予定であったが、行事そのものが中止となっており、調査ができていない状況がある。
今年度の借用については特に問題は起きていない。秋季展の準備で東京に出張が必要だったが、時期をずらさなくてはならなくなった。

経営企画課長
資料から補足する。
企画展実績は 37,163 人であった。予算要求上の目標値は 42,252 人であり、一割ほど届かなかった事になる。

委員 D
アンケートの回収割合はどのくらいか。

事務局
据置だと 2～3%、直接お願いする形だとその倍程度になる。

学芸課長
調査研究については、論文などの執筆件数が少なかったため、「やや評価できる」とした。

委員長
図録についての記述がないようだ。去年は図録の刊行はなかったか。

学芸課長
一般図書としての出版物はあった。

委員長
図録の実績も評価対象としたいので、示してほしい。今回の評価には入らないが、この本（まじないの文化史）は大きな実績だと思う。

学芸課長
秋の企画展に合わせて一般書籍として出版物があったが、独自の図録はなかった。夏の展覧会のパンフレットは文化庁とともに作成した。

委員長
新聞寄稿もあったのではないか。

事務局
年報には出ているが、昨年度の年報はまだ刊行されていない。

学芸課長
寄稿にも学術的なものか一般向けのものかレベルの違いがある。

委員長
線引きは難しいこともあるが、高度なレベルのものだけカウントする必要はなく、博物館の実績とすればよいと思う。

経営企画課長

学校教育について、学校利用率は若干届かなかったが、ほかの実績から評価できるとしている。昨年度は2月頃からキャンセルが相次いだ。中学校以上については全体としては増加傾向にある。

委員長
県内小学校については、出前授業と来館の2つか。目標としている県内の1／3というのは大変なことだ。

佐藤委員
中学校・高校がふえている実績を評価したいので、取り組み実績への記載をしてもらいたい。

経営企画課長
社会教育について、出前講座、館員講座の満足度は目標をクリアしている。ボランティアは3月の1ヶ月がなかった状況であるが、それを勘案してもやや少なかったので、「やや評価できる」とした。なお、参考までに、昨年度18名に対して、今年度は24名の登録があった。募集案内先を増やしたりなどした。

佐藤委員
満足度2つとボランティアの実績が指標になっている。満足度というのはすっきりした数字ではない。回数や人数を指標とすると数字としてわかりやすいのだが。

経営企画課長
テーマによって参加人数の凹凸がでるので、満足度にしている。

館長
回数についてはマンパワーの問題もある。アンケートによって、テーマの選定も含めて満足度をお聞きしているとご理解いただきたい。今年度は外に出て行けない状態だ。

佐藤委員
ボランティアの人数が大きく増えたのはよいことだ。今後も増やす予定か。

経営企画課長
ボランティアの人数が増えるのは広報にもつながると思っている。早く活動が始まってほしい。

委員B
出前講座は市町村からテーマの依頼があるのか。

経営企画課長
原則はこちらが出したテーマから選んでもらう。

委員B
人気があるテーマは？

経営企画課長
戦国時代や大河ドラマに関するものが人気があるようだ。

学芸課長
地域に密接に関連する内容を要望されることもある。

委員A
自分の館では講座は市政便りなどに案内を出しているが、県博ではどうしているのか。

経営企画課長
教育委員会宛に案内を出し、公民館などから申し込みがある。

学芸課長
共催という形で旅費は当館持ちにしている。

委員長
書籍、一般書の刊行は社会教育の評価対象にもなると思う。昨年度は秋展で書籍が刊行されたということなので書名を確認したい。
（実物を回覧、「あ、コレ知ってる！はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」）

学芸課長
学術面連携では、地域史研究ネットワークの事業数が1件のみであった。このことから自己評価を「やや評価できる」にしている。

委員長
どんな事業か。

学芸課長
例年県内の関連学会との連携で事業を行っていたが、昨年度はそれが実現できなかった。自主的に事業を立ち上げることが難しい。

委員 A
展示協力、研究協力にもさまざまなレベルのものがあると思うが。ここで挙げているのはどんなものか。

学芸課長
展示に実際にコミットしたり、報告書をつくるというレベルである。

委員 A
博物館の名称が出るようなものか

事務局
依頼文書が出るレベルのものである。

委員長
地域史研究ネットワークを除くと館の知識の提供のように見える。連携というのは双方向のものと考えるが、そのようなものがあるか。

学芸課長
科研や個別研究での共同研究は調査研究に入っており、ここには含まれていない。

経営企画課長
地域連携について、昨年度と同数の実績であった。件数に加えていないが、県旅館ホテル組合にポスター掲示の依頼を行った。企画展示室では各施設のパンフレットを並べた。

委員 C
前年度と件数が同じだが、内容、連携先は変わっているのか。

経営企画課長
基本的に同じで、新規はない。強いて言えば、冬季の旅館ホテル組合がそれにあたる。

委員 C
双方にメリットのある、非常にいい関係だと思う。win win の関係が増えるとよい。

経営企画課長
夏にも展示に関連する紬の施設の案内を置いた。

委員長
展示作品を核にしたいろいろな連携が生まれるとすばらしい。

館長
文化遺産総合活用推進事業による芸能のイベントを、開催地域を変えて行っており、定着してきている。芸能関係のイベントは地元での集客力が違う。教育委員会との連携にもなる。

委員長
博物館が無形のものにも取り組んでいるということだ。

委員 C
米百俵祭りの表記が間違っているので訂正願う。

館長
失礼した。

経営企画課長
情報発信について、報道件数は昨年度よりは下回っているが目標値は超えている。364が新聞、雑誌が201、テレビ・ネットニュースが259である。前年よりは少し落ちている。ホームページアクセス件数は昨年度よりは下回っているが、SNS が地道に伸びている。火焔土器をモチーフにしたキャラクターを作成した。
全体として「評価できる」とした。

委員 D
SNS の担当者は一人か。

経営企画課長
2名で行っている。

委員 D
SNS がまめだと思う。

田中委員
ツィッターで最初にフォローしたのが博物館だ。話題が多岐にわたっていると思う。

経営企画課長
県庁内では一番の実績である。

委員 B
攻撃やデマもあるので注意が必要だ。

経営企画課長
一昨年度は問題のある書き込みがあり、非表示とした。

経営企画課長
管理運営については外部評価の対象でないが、説明だけ行っておきたい。H30 年度は来館者が多かったので、収支比率が 7.8%と高かったが、昨年度は来館者がそれほど多くなく、一方固定費が上がっており、支出が増えたことから比率が下がっている。指標達成率は 74%であった。

副館長
総括については、利用者数は昨年度より減少し、満足度は若干上がっている。2ページ目にやや詳しく示しているように、利用者数の減少が見られたので、自己評価は「やや評価できる」とした。

委員長
細かなところはこれまでに聞いたので、以上でよいかと思う。
再度確認したいことはあるか。
B がついた項目の根拠を確認したい。総括は利用者の減少であった。企画展も同じ理由であったか？

学芸課長
思ったほどの来館者数にはならなかった。

委員長
調査研究については？

学芸課長
論文の執筆件数である。

委員長
社会教育は？

経営企画課長
ボランティア実績による。

委員長
学術連携は？

学芸課長
事業数が目標に達していない。

委員長
では、委員会としての評価とコメント担当者の検討にうつりたい。

（館側退席）

委員長
最後に次回検討会の日程を定めたい。

（協議の結果、7 月 17 日金曜日と決定）

副館長
最後に今年度の状況について、説明する。
昨年の新潟県行財政改革行動計画に基づき、予算については 10％シーリングとなった。また、収入を増やす目的で、企画展観覧料と常設展観覧料をそれぞれに徴収することとなった。現在、お金をかけないで行える工夫のアイデアを館員に呼びかけているところである。

閉会

タイトル	浮世絵でみる！お化け図鑑	期　間	平成 31 年 4 月 20 日(土)～6 月 2 日(日)(39 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST 後援：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、柏崎日報社、BSN 新潟放送、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、エヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、エフエム上越、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会、新潟県高等学校文化連盟 企画協力：アートワン		
開催目的	江戸時代のお化けブームの中で、絵師たちが浮世絵に可視化させたお化けや妖怪の世界を展覧する。		
特記事項	個人コレクション巡回展。		

	実　　績	予算上の見込値	達成率
観覧者数	15,850 人 （うち有料 8,257 人）	12,426 人 （うち有料 6,137,人）	128%

展示構成・内容		(付記事項) 入口に記念撮影コーナーを設置。造形大学生作の間違い探しクイズを実施
展示品・借用	個人コレクションの巡回展。アートワン企画協力。浮世絵約 130 点に加え、新潟ゆかりの館蔵品を追加。	
パネル･図録等製作	巡回展のためパネル、図録作製なし。	

関連イベント	講座・講演会		・「浮世絵の中の妖怪たち」香川雅信氏（兵庫県立歴史博物館学芸課長）5 月 16 日（日）　99 人
	展示解説		・土日祝日に担当が可能な日に実施。来館者が多く中止したケースもあった。
	体験イベント		・お化け缶バッジを作ろう！(体験コーナー)　　20 回　3,043 人
	その他		・表千家われもこう呈茶席の開催　1 回　計 272 名 ・れきはく寄席「怪談と妖怪の落語を楽しむ」5 月 12 日　140 人
広報	有料広告	主催広告	新潟日報社・広告 5 回　　半 5 段 2 回、半 3 段 3 回　・その他、特集記事掲載 ＮＳＴ・CM 回数報告なし
		広告	FM - PORT・スポット CM、ラジオ番組出演、特設 HP への掲出、ＦＭながおか・スポット CM、ラジオ番組出演、うまさぎっしりスタンプラリー※春秋の 2 回・スタンプ参加、3 枠広告 JAF 新潟支部
	無料広告	取材報道	【新聞】　8 件・新潟日報 2 回　・朝日新聞 1 回　・産経新聞 1 回　・長岡新聞 1 回　・信濃毎日新聞 1 回・毎日新聞 2 回 【テレビ・ラジオ】　8 件・NST 1 回　・NCT1 回　・BSN ラジオ 1 回　・ＦＭながおか 4 回（収録 2 回、スタジオ出演 2 回）・FM - PORT（出演 1 回）
		企画報道	【県、市町村広報誌等】　・県民だより（春号）・市町村広報誌 3 回（上越市、五泉市、長岡市） 【新聞・雑誌等】くびきの創信（上越地域振興局枠） 【テレビ・ラジオ】42 回以上 ・「県からのお知らせ」NST.TeNY・UX ホットホットにいがた・NHK　・NST　・NCT・BSN ラジオ　・FM - PORT　・FM ながおか）
		パブリシティ	【新聞紹介】53 件 ・新潟日報 25 回（Otona プラス 1 回、n-assh1 回、ふむふむ 1 回含む）・毎日新聞 14 回、朝日新聞 1 回・産経新聞 1 回、長岡新聞 4 回、妻有新聞 1 回、十日町新聞 1 回、信濃毎日新聞 1 回 ・ニュースあらかると長岡 2 回、ニュースあらかると柏崎 1 回・越後ジャーナル 2 回 【雑誌】※プレパブ以外 ・キャレル 3 月号、4 月号、5 月号、ホットペッパー長岡見附版 3/29 号・カルチャーにいがた、TV WEEKLY4/20 号 【テレビ・ラジオ】ＮＳＴ、ＮＨＫテレビ、ＮＣＴ・FM 群馬、FM - PORT・FM ながおか 【Web サイト等】・県庁 HP　・県庁職員ポータル・メールニュース・にいがた観光ナビ・長岡コンベンション協会・新潟文化物語・じゃらんネット・月刊にいがた WEB・いこーよ・イベントバンク　など
		プレパブ	31 件（ＪＡＦＰＬＵＳ、ふれっぷ、Ｄｏｏｓ、ぽるたーた、365 長岡、キャレル、パルジェ、燕人、上越タイムス、ナジラビ長岡見附版、月刊 Motecot、ニュースあらかると長岡、ニュースあらかると柏崎まるごと県央、まるごと新発田、まるごと上越、デリジェイ、新潟 Komachi、TVWEEKLY、まるごと生活情報、シーズン柏崎、はっぴーママ、週刊クイック、ジャックランド、ふむふむ、朝日新聞、長岡新聞、妻有新聞、ＦＭながおか、ＦＭ群馬、NST）
		SNS	Twitter　インプレッション：383,712 件（前年度 189,688 件） ツイート数：87 件（前年度 67 件）
	その他（ポスター等）		【ポスター・チラシ】2,780 か所に対し、チラシ 40,153 枚及びポスター2,332 枚を送付 338 か所に対し、チラシ 21,539 枚及びポスター180 枚を持ち込み配布
経費	・県費からの支出決算　8,861 千円　　・収入決算　6,127 千円		
総括	浮世絵、お化け・妖怪それぞれに惹かれる新規入館者を誘う展覧会であった。SNS の広まりに撮影コーナーが効果があった。間違い探しは好評であったと同時に渋滞も招いた。		

タイトル	新たな国民のたから	期　間	令和元年7月27日(土)～8月25日(日)(27日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、文化庁　共催：新潟日報社、NST 後援：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FMながおか80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会、新潟県高等学校文化連盟		
開催目的	（1）受け継がれてきた日本文化や文化財の多様性を再発見する機会とする。 （2）文化庁の購入した、新潟県にゆかりのある文化財を紹介する。 （3）国宝・重要文化財やこれに準ずる優れた美術品を多数展示し、普段なかなか目にすることのできない価値ある文化財に接する機会を広く提供する。		
特記事項			

	実　　績	予算上の見込値	達成率
観覧者数	8，319人 （うち有料6,059人）	10,260人 （うち有料5,067人）	81%

展示構成・内容	（1）いのり（2）うた（3）武装 （4）文字と歴史 （5）能と茶の湯 （6）描かれた世界（7）日本のわざと美（8）皇室の名宝	(付記事項)
展示品・借用	およそ50点、	
パネル・図録等製作	リーフレット原稿、パネル・ネームプレート等の製作は当館が担当	

関連イベント	講座・講演会	・7月27日13:30～「文化財の保存と活用－近年の古文書指定から－」藤田励夫氏　参加者：52人
	展示解説	一般向けなし
	体験イベント	
	その他	

広報	有料広告	主催広告	新潟日報　広告4回　半5段2回、半3段2回 ・その他、特集記事掲載 ＮＳＴ・CM回数報告なし
		広告	雑誌「歴史人」　1／4ページ広告（7月号）読売新聞折り込み広告　タパス（夏の観光特集） ＰＲ用うちわ（夏・秋兼用）　3,000枚作成配布 JAF新潟支部
	無料広告	取材報道	【新聞】　3件　・新潟日報1回　・長岡新聞1回 ・信濃毎日新聞1回 【テレビ・ラジオ】　7件 ・NST 2回 ・NCT2回　・TeNY1回　・ＦＭながおか2回
		企画報道	【県、市町村広報誌等】　6回 ・県民だより（夏号）・市町村広報誌5回（長岡市、柏崎市、上越市、村上市、出雲崎町） 【テレビ・ラジオ】30回以上 ・「県からのお知らせ」NST.TeNY・FMピッカラ・FMながおか・NST　・NHK　・TeNY　・NCT
		パブリシティ	【新聞紹介】38件 ・新潟日報18回　・読売新聞1回　・毎日新聞7回・朝日新聞1回　・長岡新聞3回　・妻有新聞1回　・十日町新聞1回　・信濃毎日新聞1回　・越後ジャーナル2回・庄内新聞1回　・福島民報1回　・ニュースあらかると長岡1回　・ニュースあらかると柏崎1回 【雑誌】※プレパブ以外 ・キャレル7月号、8月号　・ホットペッパー長岡・見附版6/28号・カルチャーにいがた　・シーズン柏崎7月　・デリジェイ7.8月号・Moteco7月号　・朝刊ウィークリーBiz 【テレビ・ラジオ】・NST　・NHK　・TeNY　・NCT　・FMながおか 【Webサイト等】 ・県庁HP　・県庁職員ポータル　・メールニュース・にいがた観光ナビ　・長岡コンベンション協会　・新潟文化物語・じゃらんネット　・月刊にいがたWEB　・いこーよ・イベントバンク　など）
		プレパブ	21件 ・ＪＡＦＰＬＵＳWebページ　・Ｄｏｏｓ7・8月号・ぽるたーた7月号　・365長岡7月号　・ジャックランド7月号　・パルジェ　・燕人　・ナジラビ長岡・見附版7月号・ニュースあらかると長岡7/7号　・ニュースあらかると柏崎・まるごと上越7月号　・新潟Komachi6/25号・ジャックランド7月号　・はっぴーママ7月号・まるごと生活情報7/27号・朝日新聞　・庄内新聞　・長岡新聞　・妻有新聞・ＦＭながおか　・ＦＭ群馬　・NST
		SNS	Twitter　7月27日～8月25日（30日間）インプレッション：330,841件（前年度193,226件） ツイート数：57件（前年度61件）
	その他 （ポスター等）		送付2,837か所に、チラシ44,766枚及びポスター3,229枚、持込み432か所、チラシ16,876枚及びポスター135枚、 コンビニにポスターを設置 ファミリーマート177店舗

経費	・支出決算　1,238千円　　・収入決算　2,373千円

総括	文化庁の所蔵する貴重な文化財を新潟県ゆかりの品を含め、多数展覧する機会を得た。

タイトル	「国民の文化財 あ、コレ知ってる！はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」	期　間	令和元年９月 14 日(土)～11 月４日(月)(45 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST 後援：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、BSN 新潟放送、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、エヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会、新潟県高等学校文化連盟		
開催目的	日本史の証拠物件であると同時に、芸術創作活動などによって多様なイメージを拡張し、イメージの再生産に寄与してきた文化財である考古資料を展覧し、現代史のなかで日本国民に共有されてきた歴史的イメージや文化的アイデンティティを紹介。天皇陛下御即位記念、第 34 回国民文化祭、第 19 回全国障害者芸術・文化祭にかかる特別展。		
特記事項			

観覧者数	実　績	予算上の見込値	達成率
	8,570 人 （うち有料 3,985 人）	13,890 人 （うち有料 7,337 人）	62%

展示構成・内容		(付記事項)
展示品・借用	東京国立博物館、明治大学博物館、青森県、函館市など。157 件。	
パネル・図録等製作	外注。図録執筆は当館の担当者があたった。	

関連イベント	講座・講演会		「縄文ゲノムからみた日本人」太田博樹（東京大学教授）　９月 22 日　136 人 「縄文にハマる人々」映画上映とトークショー山岡信貴×望月秀昭×譽田亜紀子×松山賢　10 月 23 日　95 人
	展示解説		国文祭関連ツアーおよび関連館内講座にともなって実施
	体験ｲﾍﾞﾝﾄ		なし
	その他		斎藤孝太郎　縄文コンサート（常設展示室　縄文人の世界）
広報	有料広告	主催広告	新潟日報広告７回、半５段４回、半３段３回、その他特集記事掲 ＮＳＴ　ＣＭ
		広告	新潟日報朝刊全２段４回、うまさぎっしりスタンプラリー　スタンプ参加、３枠広告、JAF 新潟支部
	無料広告	取材報道	【新聞】８件新潟日報４回、朝日新聞２回、長岡新聞２回 【テレビ・ラジオ】NST１回、NHK１回、NCT２回（収録同一）・FM ながおか２回（収録同一）
		企画報道	【県、市町村広報誌等】　６回 ・県民だより（夏号・秋号）・まいぶんナビ　・市町村広報誌２回（上越市、長岡市） 【テレビ・ラジオ】4・「県からのお知らせ」NST.TeNY（広報広聴課枠）・「県政ナビ」BSN（広報広聴課枠）・FM ピッカラ（柏崎地域振興局枠）・FM ながおか（長岡地域振興局枠 17 回含む）　・NHK　・NST　・NCT・長岡観光コンベンション協会ラジオ「ナガオカ NGOK★」
		パブリシティ	【新聞紹介】67 件（新潟日報 40 回、毎日新聞 12 回、朝日新聞 4 回、長岡新聞 4 回、妻有新聞 1 回、十日町新聞 1 回、福島民報 1 回、越後ジャーナル 2 回、ニュースあらかると長岡 1 回、ニュースあらかると柏崎 1 回） 【雑誌】（キャレル 8 月号、9 月号、10 月号、ホットペッパー長岡見附版 8/30 号、カルチャーにいがた秋号、Moteco9 月号、シーズン柏崎 9 月号） 【テレビ・ラジオ】NST　・NHK テレビ・BSN テレビ・NCT・FM ながおか（長岡地域振興局枠 17 回含む）・FM ピッカラ（柏崎地域振興局枠） 【Web サイト等】・にいがた観光ナビ　・長岡コンベンション協会　・新潟文化物語・じゃらんネット　・ジョイフルタウン　・いこーよ・イベントバンク　・月刊にいがた WEB　など
		プレパブ	27 件（ＪＡＦＰＬＵＳweb ページ・ふれっぷ、Ｄｏｏｓ、ぽるたーた、キャレル、パルジェ、燕人、ナジラビ長岡見附版、ニュースあらかると長岡、ニュースあらかると柏崎、まるごと生活情報、はっぴーママ、ジャックランド、cocola、月刊にいがた、まちかどコンパス、長岡新聞、妻有新聞、ＦＭながおか、NST
		SNS	９月 14 日～11 月４日（52 日間） インプレッション：421,285 件（前年度 283,688 件） ツイート数：99 件（前年度 107 件）
	その他 （ポスター等）		【Ａ４チラシ】2,373 箇所に対し、チラシ 51,176 枚、ポスター2,823 枚を配布 持込み　1,078 箇所に対し、チラシ 35,317 枚、ポスター803 枚を配布 セブンイレブン：チラシ 4,180 枚

経費	・支出決算　14,029 千円　・観覧料収入　3,290 千円

総括	文化財としての考古資料が現代史の中でどのように取り扱われてきたかを紹介しながら、国宝・重要文化財を含む貴重な資料を間近に見られる機会を提供できた。

展覧会名	**越後佐渡の温泉文化**	期　間	令和２年１月 18 日(土)～3 月 1 日(日)(38 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館　新潟日報社　ＮＳＴ　**特別協力**：新潟県旅館ホテル組合 **後援**：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、BSN 新潟放送、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ２１、NCT、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、新潟史学会　新潟県民俗学会　新潟県考古学会　新潟県高等学校文化連盟		
開催目的	全国でも有数の温泉県であるといえる新潟県における温泉に関わる歴史や文化を概観し、現在につながる温泉大県である新潟の位置を再認識する。		
特記事項	感染症拡大防止のため１週間会期短縮		

観覧者数	実　　績	予算上の見込値	達成率
	4,424 人 （うち有料 2,366 人）	5,676 人 （うち有料 2,802 人）	78%

展示構成・内容	プロローグ／江戸時代以前の温泉利用／近代の温泉利用／レジャーと温泉ブーム／越後佐渡の温泉を訪れた文人墨客／エピローグ	(付記事項)
展示品・借用	阿賀野市教委、湯沢町教委、燕市良寛史料館、長岡市立中央図書館文書資料室、各地温泉旅館などより借用。138 点	
パネル・図録等	パネルは自作。	

関連イベント	講座・講演会		講演会「「知れば知るほど楽しい温泉、新潟の温泉」山崎まゆみ（フリーライター） 1 月 26 日、151 人 講座「古代の人と温泉」浅井　2 月 15 日、49 人
	展示解説		なし
	体験ｲﾍﾞﾝﾄ		
	その他		山崎まゆみサイン会　1 月 26 日講演会終了後
広報	有料広告	主催広告	・新潟日報　・広告２回　半５段１回、半３段１回その他、特集記事掲載、NST　CM
		広告	JAF 新潟支部
	無料広告	取材報道	【新聞】　8 件（新潟日報３回・朝日新聞１回・長岡新聞１回・読売新聞１回・産経新聞１回・朝日新聞１回） 【テレビ・ラジオ】　6 件（NST１回・NHK1 回・NCT1 回・FM ながおか２回・FM ポート１回）
		企画報道	【市町村広報誌等】・県民だより（冬号）・市町村広報誌１回（上越市・新潟市西蒲区） 【テレビ・ラジオ】35 回以上・ラジオ「県からのお知らせ」FM ポート（広報広聴課枠）３回・テレビ「県からのお知らせ」NST.TeNY（広報広聴課枠）４回中２回は中止・Teny「フキダシコクチ」（広報広聴課枠）・FM ピッカラ（柏崎地域振興局枠３回）・FM ながおか（長岡地域振興局枠 12 回含む）・FM ポート「モーニングゲート」・NHK　・NST　・NCT
		パブリシティ	【新聞紹介】36 件（新潟日報、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞、長岡新聞、妻有新聞、十日町新聞、ニュースあらかると長岡、ニュースあらかると柏崎） 【雑誌】キャレル、ホットペッパー長岡見附版、カルチャーにいがた冬号、Moteco1 月号（松本）、ナジラビ長岡見附、歴史探訪、歴史道、タウンウィークリー 【テレビ・ラジオ】 ・NST、NHK、BSN、NCT、Teny（広報広聴課枠フキダシコクチ）、FM ながおか（長岡地域振興局枠 12 回含む）、FM ピッカラ（柏崎地域振興局枠）、FM ポート（広報広聴課枠３回含む） 【Web サイト等】 県庁職員ポータル、メールニュース、にいがた観光ナビ、長岡観光コンベンション協会、新潟文化物語、じゃらんネット、ジョイフルタウン、いこーよ、イベントバンク、月刊にいがた WEB　など
		プレパブ	20 件（ぽるたーた、ナジラビ長岡見附、ナジラビ県央、365 長岡、ジャックランド、みんぽう伝次郎クラブ（福島）、Tact（富山）、Ｄｏｏｓ、キャレル、まるごと上越、ＪＡＦＰＬＵＳweb ページ、ニュースあらかると長岡、ニュースあらかると柏崎、まちかどコンパス、長岡新聞、妻有新聞、十日町新聞、朝日新聞、ＦＭながおか、NST）
		SNS	１月 18 日～３月１日（44 日間） インプレッション：342,258 件（前年度 311,310 件） ツイート数：57 件（前年度 94 件）
	その他 （ポスター等）		【Ａ４チラシ】2,204 箇所に対し、チラシ 35,656 枚、ポスター1,938 枚を配布※特別協力「県旅館ホテル組合」の会員 453 件を含む 直接持込 74 箇所に対し、チラシ 17,229 枚、ポスター788 枚を配布、19 市町村 73 施設掲示依頼 コンビニ（１店舗あたり 10 枚）セブンイレブン：チラシ 4,180 枚、ファミリーマート：チラシ 1,770 枚

経費	・支出決算　1,156 千円　　・収入決算　1,185 千円

総括	親しみのある温泉をテーマとし、多くの関心を集め、温泉ソムリエコメント、温泉番付も人気があった。

新潟県立歴史博物館評価委員会報告書
発 行 日：　令和２年８月 27 日
編集発行：　新潟県立歴史博物館評価委員会